

友だち募集中

全厚労では公式LINEアカウント開設中です



全厚労ニュース

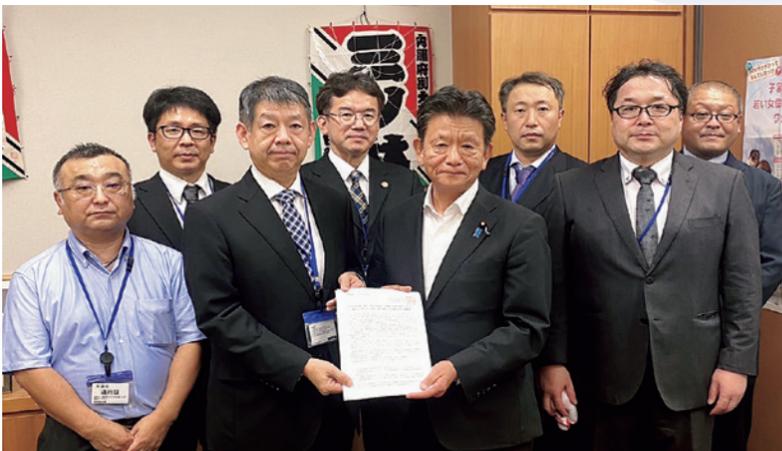
全厚生 国連労働組合連合会

〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月20日
https://www.zenkouro.org/

一言署名」で財務・厚労大臣へ現場の声を届けよう!

診療報酬制度改善・大幅引き上げ 医療・介護へ国からの大胆な支援を

23秋・国会議員要請行動で衆参厚労委員など100名を訪問



衆議院厚労委員長の三ツ林裕巳議員も全面的に賛同

全厚労は9月21日、中執会議と連動させて、国会議員と全厚連への秋闘要請を行いました。9県16名の中執が参加。事前に衆参厚労委員と21年春の衆議院賛同議員、計100名に要請書と資料を送り、「ケア労働者の賃上げ・処遇改善」に向けた診療報酬改善・大幅引き上げや公的病院への財政支援、真の「働き方改革」が進むような施策の実施を求めました。

アポイントを取って懇談できた議員や当日直接会えた議員は10名以上になりました。国会閉会中で議員が地元に戻っている方も多く、秘書の方々にもしっかりと医療・介護現場の実態を訴えて、改善を求めてきました。

また9月15日には、四役会議と連動して三ツ林裕巳衆議院議員（衆議院厚労委員長・農民の健康を創る会事務局長）とも懇談し、「診療報酬

の引き上げが最大の要求です」と答えられ、全面的な賛同を頂きました。

9月21日の要請では、16名の中央執行委員で4班に分かれ、議員会館を回りました。

泉田裕彦議員（自民・新潟）は、「国民や政治家の多くが財務省にだまされている。財政出動で経済を回すべき。賃上げしなきゃ消費は伸びない」と20分近く、熱く話されました。

阿部知子議員（立憲・神奈川）は、「現行の評価料は分断に繋がる。農業と医療のインフラを担っている厚生連には頑張ってもらいたい」とメールを送って下さいました。

小川淳也議員（立憲・香川）は秘書対応でしたが、30分ほど懇談しました。「医療は公的なも

の。医療費がきちんと正しく使われているのか。労働者に回っていない。働き方を含め、医療従事者の献身に頼っていくべきではない」など議員の考えを代弁して話されました。

その他、当日アポを取れたのが、高橋千鶴子議員、本村伸子議員、宮本徹議員、塩川鉄也議員。アポを取って秘書と懇談したのが青山大人議員。下条みつ議員、篠原孝議員、野間健議員、城内実議員とは当日、議員本人と話すことが出来ました。

地元事務所で懇談したい、病院視察させて欲しい、国会質問をしたい等の反応ももらっており、引き続き協力を要請していきたくと考えています。

地元から来ているという反応も良く、今回参加者のいなかった県選出議員は、「次回は是非、地元の皆さんと懇談したい」と話されていました。

激励・賛同のメッセージも寄せられています。

メッセージはこちらから



財務・厚労省宛一言署名フォーム

23秋闘で全厚労は、国を動かすには、現場の声を具体的に伝えていくことが必要だと財務大臣・厚労大臣宛の「一言署名」に取り組んでいます。ネットからも可能ですので、ぜひ多くの人から声を上げてもらうことを呼びかけます。



本村伸子議員（共産・比例東海）

アポイント取り
くりかえし要請も



小川淳也議員（立憲・香川）秘書

処遇改善と法律遵守の徹底指導を要請

議員要請後には大手町JABの全厚連へ向かい、23秋闘要求を要請しました。要請団は、議員要請に残った4名を除く、12名の中執。全厚連からは、前田参事（元農水省）の他、経営支援部の職員ら3名が対応しました。冒頭、岩本委員長は、「コロナ禍の3年間で、補助金等もあって全厚連全体では相当の内部留保が積み上がっている。4〜6月期の医療収支は厳しいとされているが、年末一時金は、物価高や光熱費増等で下げる状況にはない。人等に手当てする人員確保するためには前年水準確保は当然のこと、引き上げの方向で指導や全厚連内での議論をして欲しい」と訴えました。

前田参事は、「今年度第1四半期は、業収入増の傾向だが、それ以上に費用、特に光熱費の伸びが凄まじく高くなっている。交付金の給付も各県水準がバラバラで、農民の健康を創る会を通して要請を続けている。現在は経営指導方針も変え、病院毎の経営分析・指導も強めているところだ」などと説明されました。要請団からは、各所で労基法違反などの事例やハラスメントが起きていること、労働組合に事前に説明・協議なく、一方的に労働条件や事業変更の動きが見られることなどを訴え、くれぐれも「違法行為」「不当労働行為」とならないよう各県連経営者や管理職を含めて、通達や指導・研修等を強めるよう要請しました。

要請書の全文はこちらから



石田昌宏議員（自民・参院比例）

23秋・大学学習キットオフ月間

15分動画で気軽に学べる「ポチ学」

ポチっと学習 ワン 15 ゴー

【各15分で学べる労働組合入門 5本のラインナップ】

- 第1講座「自分ごとを自分の手に～労働組合とは」
- 第2講座「労働者とはそもそも～労働力と尊厳をめぐる」
- 第3講座「たんけん！ドラマいっぱい、労働運動の歴史」
- 第4講座「労働者のものの見方、言葉をみがきあう」
- 第5講座「労働組合のパワーを高める3つのレシピ」

全厚労は23秋を「働くルールを学び、活用する大運動月間」のスタートとして、「大学学習キットオフ月間」と位置づけています。この「月間」では、22年3月の東海ブロック春季学習会や、全厚労23春闘討論集会でも学習講演をしていただいた、岡山県労働者学習協会事務局長の長久啓太氏の「ポチっと学習15（ワンゴー）」を学習資料として、各県単組・支部での集団・個人視聴による学習活動を呼びかけています。

一本15分のミニ学習

各講座は上記図の通り。それぞれ15分での完結型なので、お昼休みや執行委員会、専門部会議などのアイズブレイクや、ミニ学習として活用しやすく工夫されています。また各講座がA4用紙2ページのレジメにまとめられていますので、振り返りや、復習などが行いやすくなっています。動画は全厚労ホームページの組合員専用ページからご覧いただけます。アクセス方法や専用のURLについては、各県労組本部へお問い合わせください。

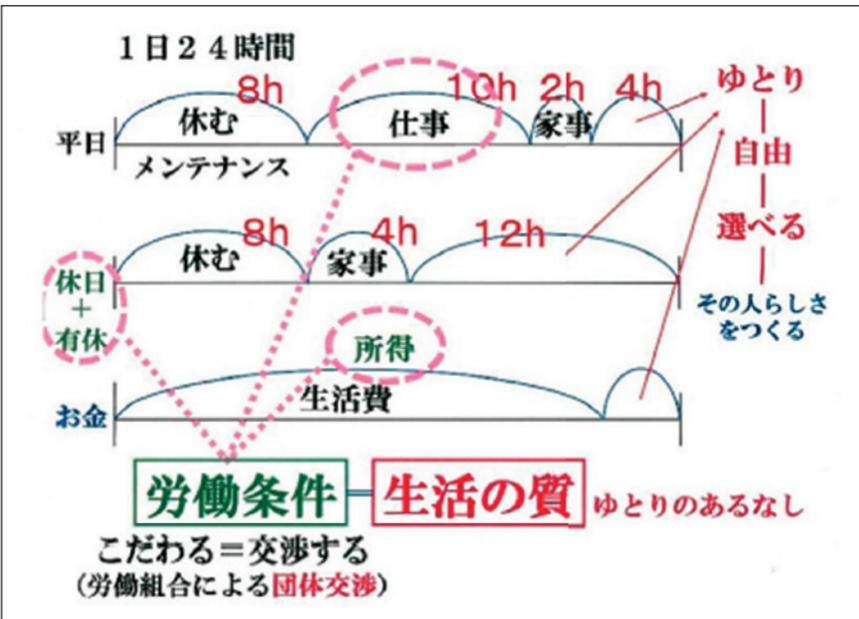


図1 第1講座レジメより：労働条件と生活の質との関わり

講座を少し紹介

講座の中身を少しだけ紹介します。第1講座では、「労働組合は、労働条件を交渉できる唯一の組織でありパワー」というパワーワードから始まり、私たちの生活と労働組合が密接に関わっていて、いかに重要なものかを学習することができます（図1）。

図2 第2講座レジメより「労働力を再生産するために必要なこと」とは



第2講座では、「労働者」「人間らしい生活」だといとは何か」ということを、うことなど、「労働力」を

法律や使用者との関係から解説。労働者が賃金を得るためには、「労働」を売っているように見えて、本質は「労働力」を商品として売っていることを学びます。そのためには労働力のエネルギー再生産が必要で、その再生産に必要なことは「人間らしい生活」だといへる。このように1から5までの講座が「労働組合入門編」として受講できるので、組合に入ったばかりの青年層はもちろん、今まで時間がとれず労働組合や労働者の本質について学習できなかった中堅や、長く役員を担ってきたベテランの方も、この機会に共に大きく学習を進めましょう。学習を終えたらぜひ「感想文フォーム」への投稿をお願いします。

組合初心者からベテランまで

ドクター山本晴義の心の相談室(6)

無意識の偏見 常に自問すること



山本晴義先生
たようにさまざま
なアンコンシャス・
バイアスがあふれて
います。
職場でこうした

秋に運動会や体育祭を行う学校も多いですね。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、昨年末に人数制限や時間を短縮して午前中のみに行うといった対策がとられていたのですが、今年はどうなったのでしょうか。聞きかじりしている限りですが、元通りではなく、熱中症予防の観点などから引き続き午前中開催とする学校も多いうようです。昔から運動会といえど一日を通して行うものという認識でしたが、それはあくまで慣習となっていたからであり、一日中でなければならぬものではないかもしれません。いわば、無意識の思い込みのようなものではないでしょうか。こうした無意識の思い込みや無意識の偏った見方は「アンコンシャス・バイアス」として表現され、自分の経験や知識から、自分自身が意識せずに持っている考え方を指します。考えてみると世間には「人形遊びは女の子」「育児休暇は女性がとるもの」「男の子は、ピンクは着ない」「力仕事は男性中心」といった

無意識の思い込みがあると、セクハラ、パワハラ、モラハラにつながるやすすいすい、人材評価や採用選考にも影響が出やすいと考えられます。たとえば、同じような人材ばかり採用してしまったり、多様なバックボーンを持つ人材に対して門戸を閉ざしてしまったり、組織にととのせつつかのチャンスを失うこともあるでしょう。

アンコンシャス・バイアスには誰もが持つっており、無意識なので自覚も難しいのは確かですが、自分の考えが偏っていないか、常に自問していくことがまず大切だと思います。

福島

わきおい

青年あつまり 学び・交流深める

9月23日、福島県猪苗代町ホテルリステル猪苗代にて福厚労「青年部オータム交流会」が開催され、コロナ禍を経て4年ぶりに参加者が現地に集まり交流しました。

青年部のつながり 第一歩

開会式では遠藤剛司青年部長が、これまでの福厚労青年部スローガン「学習3割、遊び7割」から新しく「NEXT STAGE」仲間と楽しく学ぶ」に変更したことを紹介。コロナ禍でこの4年間集まって青年部の交流会ができなかったことに触れ、「今日、参加されている方も運営側も初めてのことばかり。今回の経験をこれからの活動に活かしていきたい」と、今後の活発な青年部活動と呼びかけました。

職場の状況を話し合っ

参加者は5つの病院（分會）を混ぜたグループで初対面同士、緊張した面持ちでしたが各グループに入った青年部役員らの進行もあり楽しく自己紹介。アイスブレイクでは午後からの「脱出ゲーム」のヒントとなるような労働組合にまつわる2択クイズをグループで相談して回答し、徐々に打ち解けました。

ゲームで署名の 大切さ学ぶ

午後からはイントロクイズや、「アイス何秒で食べられるか」を当てる参加型のクイズも交えた数あるゲームで盛り上がりました。脱出ゲームでは、グループで労働組合に関するクイズや謎解きにチャレンジ。「上司」や「国会議員」などの配役に

発表では、どのグループからも人間関係の悩み、施設や設備の老朽化、休みの取りづらさ、時間外が出ない、給料が少ないといった項目が辞めたくない要因に挙げられました。問題解決には職場内で話し合うことや、労働組合に頑張ってもらい、また自分たちも声を上げていくことなどが出されました。

楽しみながら 団結

集会閉会後は、夕食交流会とビンゴゲームで盛り上がり、翌日は名残惜しくも解散しました。参加者からは「労働組合の活動として、離職防止のために今回のような交流会を増やし、横の繋がりを強くすることが大事だ」と思

は話さない他分会の他職種の人とアルコールの力も借りて交流できた」といった感想が寄せられました。集会後帰宅された方からは「夕食交流会まで参加すればよかった」と残念がる声もありました。



ビンゴ1位デイズニードケット♪



名コンビ! 遠藤青年部長(左)と丸山青年副部長(右)

コロナ禍で集まっていた交流が出来なかった労働組合青年部ですが、今後は感染状況も見ながら、全国で大いに活動することを期待しています。

そして、ぜひ来年7月5日〜7日開催の全厚労青年集会「K's station in 金沢」へ結集しましょう。

「看護師ふやせ」は世界のながれ

9月26日〜27日、日本医労連は「看護要求実現全国交流会」を大阪市内で開催、全厚労11名を含め、全国からオンライン含む162人が参加しました。

記念講演では、今田紫織さん（ミネソタ看護師連盟組合員）が22年春の契約交渉で1万5千人の看護師ストに関わった際の経験を報告。ストライキを成功させるために組合員学習や意識調査を実施し、病院内を回り「ストについてどう思うか」「職場に不満はないか」など一人ひとりと対話しながら準備を進め、同年9



参加者による力強い団結ガンバロー!



グループワークで出された意見・悩みをみんなでもとめていく

グループワークでは「こんな職場なら辞めたい」をテーマに、参加者は辞めたくないような要因や、自身の「悩み」を付箋に書いて出し合い、共有しました。職種や分会・部署の違いで悩みはそれぞれで、話すことで初めて聞いたような驚きの声も上がりました。その後、解決策まで話し合い模造紙にまとめました。

脱出ゲームでは、グループで労働組合に関するクイズや謎解きにチャレンジ。「上司」や「国会議員」などの配役に



脱出ゲーム内では院長役との交渉も